

# 琉球大学学術リポジトリ

教員養成最終段階におけるプラクティススクールによる総合的力量的形成とその明示的な確認に資する事業：

平成19年度文部科学省教員養成改革モデル事業(教職実践演習の試行)

メタデータ	言語: 出版者: 會澤, 卓司 公開日: 2009-01-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/8847">http://hdl.handle.net/20.500.12000/8847</a>

# 教員養成最終段階におけるプラクティススクールによる 総合的力量的形成とその明示的な確認に資する事業

平成 19 年度文部科学省教員養成改革モデル事業

テーマの区分「教職実践演習（仮称）の試行」

## 【具体的な事業のテーマ】

教員候補生のための総合的力量的形成とその確認をねらった  
プラクティススクール構想

事業代表者 琉球大学学長 岩政輝男



平成 20 年 3 月



琉球大学

UNIVERSITY OF THE RYUKYUS

## 序章 はじめに

平成18年7月に中教審答申「今後の教員養成・免許制度の在り方について」が発表され、その中で「教職課程の質的水準の向上」が提示された。そこでは、『「教職実践演習（仮称）」の新設・必修化』や「教育実習の改善・充実」等、5点の方策が示されている。中でも『「教職実践演習（仮称）」の新設・必修化』は、教職課程における教員として最小限必要な資質能力の全体について確実に身に付けさせるとともに、その資質能力の全体を明示的に確認することである。

平成20年度中に教育職員免許法が改定されるため、この教職実践演習は近い将来の入学生から適用される予定になっている。したがって、現在、課程認定を受けている全国の教員養成系大学・学部においてはその科目のカリキュラムや方法論の検討が喫緊の課題となっている。

本事業実施にあたって考慮したことが3つある。まず一つ目は、答申の趣旨を踏まえ、そのねらいに沿う内容にすることである。これは当然であり、他大学においても同様であろう。

二点目は現代における日常の教育現場や教員の現状をよく見極め、それに厳格に合致する内容に挑むことであった。きわめて実践的な視点から日頃の教室風景を鑑み、教員として最小限必要な資質能力が何なのかを掲げ、それを方法論（プラクティススクール）にも適用し、最終的に「教員として最小限必要な資質能力の全体」を形成・確認しよう【させよう】とした。三つ目は、大学教員がただ最終的に学生の資質能力を評価するだけに本事業を展開するのではなく、これから長くなると想定される教職希望学生の教員生活のことを考え、この段階（教員養成の最終段階）から自分自身の資質能力を振り返らせる習慣を身に付けさせようとした。すでに学校現場においては教職員評価も始まっているが、この習慣を身に付けることで「日常から自分の活動を評価・修正改善する教員」の養成が可能になると判断したからである。これらを実現するには具体的に学生らの資質能力を明示する必要がある、新たなデジタルシステムを採用する必要があった。二点目と三点目が本事業固有の特長だと考えている。

今回は試行段階なので、この事業をさらに発展させられるよう具体的な成果や課題等を報告する。

(小林稔)

# **Practice School Teacher Training Workshop Trial Project**

## **Abstract**

The Practice School is partly an imitation elementary/middle school, but more so, the project is a run-by-the-students teacher training program. Performed by university students at nearby elementary and middle schools; the aim of the Practice School was to help the future educators acquire the minimum requirements (or essentials) needed to become a teacher. The Four Practice School started in mid October 2007, and using a Central Education Council report on the “Four Requirements of Teaching in Japan” as the programs core, a two dimensional standard for evaluation was drawn. Evaluations also took place in the form of self-evaluations, peer evaluations and professor evaluations using a digital pen each time.

This system, created by professors and an educational learning business, also allows for quick handling of large amounts of data, and for also showing the individual qualifications and capabilities of each student. While technically digital, this system is analog, and extremely helpful in classroom and course reflections. The Practice School is not only ensure students are fully qualified by making the graduating process more difficult, but also to give students various feedback on their abilities. Basically, before giving student teachers licenses to teach, allows professors to tell students what their qualifications and abilities are, what they need to improve on, and ensure that they have proper understanding of being educators.

平成 19 年度「教員養成最終段階におけるプラクティススクールによる総合的  
力量の形成とその明示的な確認に資する事業」実施組織

(五十音順：敬称略)

【実行委員会】

琉球大学教育学部長	會澤卓司（実行委員長）
宜野湾市立志真志小学校校長	大城盛安
島尻教育研究所所長	古波蔵肇
琉球大学教育学部准教授	小林稔
那覇市教育委員会学校教育部長	桃原亮昌

【事業推進委員会】

琉球大学教育学部准教授	浅井玲子（担当:食べごと学校）
琉球大学教育学部講師	岩田昌太郎（担当:FPSS）
西原町立西原小学校教諭	大村朝永（担当:FPSS）
琉球大学教育学部准教授	國吉真哉（担当:食べごと学校）
琉球大学教育学部准教授	小林稔（担当:事業推進・統括）
琉球大学教育学部准教授	笹澤吉明（担当:FPSS）
琉球大学教育学部教授	里井洋一（担当:SATTゼミ）
宜野湾市立長田小学校教諭	徳村恵子（担当:コックさん学校）
琉球大学教育学部准教授	萩野敦子（担当:コックさん学校）
琉球大学教育学部教授（副学部長）	藤原幸男（担当:SATTゼミ）
宜野湾市立嘉数小学校教頭	真喜志昇（担当:食べごと学校）
宜野湾市立志真志小学校教頭	屋良和正（担当:SATTゼミ）
琉球大学教育学部准教授	吉葉研司（担当:コックさん学校）

## 【目次】

### 第1部 理論編：教職実践演習（仮称）の新設と必修化

#### 第1章 中央教育審議会答申「教職実践演習（仮称）」について

第1節 今後の教職課程の質的向上	1
第2節 教職実践演習（仮称）の新設と必修化	1

#### 第2章 琉球大学におけるプラクティススクール

第1節 背景と問題意識	3
第2節 モデル事業の概要	3
第3節 モデル事業の実施体制	3
第4節 事業実施・内容	6

### 第2部 実践編：各プラクティススクール（PS）の実践

#### 第3章 「フルピーススポーツスクール」の実践

第1節 FPSSの設立と理念	11
第2節 FPSSの企画・運営	12
第3節 学生たちが直面した課題と形成した資質能力	16
第4節 まとめと課題	22

#### 第4章 「食べごと学校」の実践

第1節 学校の概要	24
第2節 実践の様子	24
(1) 事前会議について	24
(2) 授業内容の検討・教材研究について	25
(3) 各回の授業実践について	25
(4) 修了式について	25
第3節 成果と課題	27
(1) 学校の運営に関して	27
(2) 評価について	27
(3) 実施時期について	27
第4節 実践を終えての学生の感想	27

#### 第5章 「SATT」の実践

第1節 SATTゼミのめざす世界とその準備	40
第2節 SATTゼミの子ども（中学生）集め	44
第3節 SATTゼミの具体的活動	47
第4節 SATTゼミの報告—模擬学校最終報告会—	49
第5節 学生によるSATTゼミの評価	49
第6節 教員によるSATTゼミの感想	52

## 第6章 「コックさん学校」の実践

第1節 設立と理念	53
第2節 活動の全容	53
第3節 児童集めの経緯	54
第4節 具体的活動	55
第5節 成果と課題	63
第6節 むすびにかえて	75

## 第3部 実証編：資質能力の形成と確認

### 第7章 「プラクティススクールによる教職実践演習」の成果

第1節 定量的な事業評価	79
第2節 評価シートの分析による成果	87
第3節 実行委員会委員の評価	92
第4節 総括（課題と展望）	95

## 第4部 資料編：巻末資料

資料1 朝日新聞	97
資料2 沖縄タイムス	98
資料3 琉球大学における教員養成コア科目群と教職スタンダードとの関連	98
資料4 自己評価、他者評価（学生評価、教員評価）の明示化	99
資料5 リフレクションシート	99
資料6 リフレクションデジタルシステムの全体イメージ	100
資料7 総合リフレクションシート	100
資料8 宜野湾市紹介のパンフレット	101
資料9 事業終了後に用いたアンケート調査	102
資料10 事業効果検証のためのアンケート調査	103
引用・参考文献	109
謝辞	109
おわりに	110